

薬の知識で患者サポート

薬剤師

グリーン薬局

緒方徹さん(34)

風邪をひいたり、けがをしりたりして病院に行った時に処方される薬。医師の指示通りに薬を調査し、患者に正しい飲み方を指導するのが「薬剤師」。グリーン薬局（熊本市）で働き、在宅訪問や健康相談なども担当する緒方徹さん(34)をご紹介します。（河北希）

緒方さんの主な仕事は、病院からの処方箋を持って薬局に来た患者に薬を選ばせること、症状や困りごとなどを丁寧に聞き取り、一人一人に合う治療につなげるよう服薬指導をします。

薬学部に入学当初は、製薬会社で薬の開発をしたいと考えていましたが、実習を通して薬局勤務にひかれたそう。薬局はただ薬を選ばだけの場所ではないんです。錠剤やシロップといった薬の形状、成分に配慮したり、

えられる知識や技術を磨いています。「在宅薬剤師」として通院が難しい患者等に薬を届け、公民館などで健康相談に応じることも、また、学校での薬科もあり、薬物乱用防止を呼びかける教室も開いたり、プールの塩素濃度や給食室の消毒などを確認したりしています。

医療の世界は、新しい治療法や薬が次々と生まれます。自分の知識を常にアップデートしなければならぬため、日々勉強です。緒方さんは「薬局内にとまらず、さまざまな活動を通して地域医療に貢献していきたい」と自身の薬剤師像を語っています。 〓 随時掲載



グリーン薬局神水店で働く緒方徹さん＝熊本市中央区



在宅訪問で、患者（左側）と会話する緒方さん。薬を渡すだけでなく、飲み方などいかに丁寧に説明する。



◇1990年生まれ、熊本市出身。真和高等学校薬学部卒業。幼い頃から人や動物と接することが好きで、命を救う仕事を志すようになった。薬剤師歴は8年目。4月から、熊本市などで6軒の調剤薬局を運営する「グリーン薬局」で勤務する。

やりがい

患者はもちろん、その家族も含めてサポートできる点にやりがいを感じています。以前、祖父が病気で転倒で要介護となり、在宅薬剤師として薬を管理したことがあります。祖父や家族が安心してくれました。この経験が、今の自分に繋がっています。

なるための道

高校卒業後、大学の薬学部や薬科大で6年勉強します。専門的な知識を身に付け、実務実習などもあります。必要単位を修得し、薬剤師国家試験に合格することで国家資格を得られます。それから、製薬会社や病院、調剤薬局などに就職します。

なりたい人へ

薬は、わずかな量の違いでも体に大きな影響が出るため、細かい作業が得意な人に向いています。また、医師や看護師など医療関係者とのやりとりが多く、コミュニケーション力も必要。意外かもしれませんが、実は人と話すことが好きな人に合う仕事なんです。

1日のスケジュール

- 7:00 起床
- 9:00 薬局に出勤。始業準備とメールチェック。外来患者の対応
- 12:30 休憩
- 14:00 在宅訪問で、患者の薬を管理
- 16:00 外来患者の対応
- 18:00 退勤
- 19:30 勉強、趣味の時間
- 23:00 就寝



動画はこちら